

第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」進捗状況一覧表

No.	基本目標	施 策	数値目標・KPI	区分	単位	基準値 (H30年度 実績値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度の評価と課題 (分析と対応)	今後の方向性 (R7年度の取組み内容)	中間総括 (R2～R6年度の5年間の分析と対応)
1	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	★数値目標	2025年までの転出・ 転入を均衡(累計)	増加指標	人/年 (累計)	▲275(直近5 年間(26～30 年度)の累計 ▲103)	目標値	0	0	0	0	0	0	0	R6年度は、R5年度に比べ県内外からの転入が増加し、548人の転入超過となった。内訳としては、日本人が148人、外国人が400人の転入超過であった。前年度では目標値を大きく下回っていたが、累計で目標値を達成することができた。	引き続き、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境の整備に取り組むとともに、魅力的な仕事の創出や働きやすい職場環境づくりを推進する。また、移住イベントやSNSを活用し本市の魅力を発信することにより、転出の抑制と転入の促進を図る。	コロナ禍における移動抑制が緩和されたR3年度に、県外移動が活発化し転出超過が大きくなったことが影響し、R5年度までの累計は目標値を大きく下回っていたが、R6年度には548人の転入超過となり、目標値を達成することができた。また、本市の社会増減は、R2年度以降、県外へは転出超過、県内他市町村からは転入超過の傾向が続いていたが、R6年度には、県外・県内とも転入超過となった。
							実績値	9	▲ 441	▲ 362	▲ 475	73					
							達成率	108.7%	▲ 328.2%	▲ 251.5%	▲ 361.2%	170.9%					
2	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	住みよい魅力のPR、 受け入れ環境の整備 による移住の推進	2025年までの転出・ 転入を均衡(累計) 【再掲(No.1)】	増加指標	人/年 (累計)	▲275(直近5 年間(26～30 年度)の累計 ▲103)	目標値	0	0	0	0	0	0	0	R6年度は、R5年度に比べ県内外からの転入が増加し、548人の転入超過となった。内訳としては、日本人が148人、外国人が400人の転入超過であった。前年度では目標値を大きく下回っていたが、累計で目標値を達成することができた。	引き続き、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境の整備に取り組むとともに、魅力的な仕事の創出や働きやすい職場環境づくりを推進する。また、移住イベントやSNSを活用し本市の魅力を発信することにより、転出の抑制と転入の促進を図る。	コロナ禍における移動抑制が緩和されたR3年度に、県外移動が活発化し転出超過が大きくなったことが影響し、R5年度までの累計は目標値を大きく下回っていたが、R6年度には548人の転入超過となり、目標値を達成することができた。また、本市の社会増減は、R2年度以降、県外へは転出超過、県内他市町村からは転入超過の傾向が続いていたが、R6年度には、県外・県内とも転入超過となった。
							実績値	9	▲ 441	▲ 362	▲ 475	73					
							達成率	108.7%	▲ 328.2%	▲ 251.5%	▲ 361.2%	170.9%					
3	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	若者の就職支援・UI Jターンの推進・雇用 の安定	県Uターン就職率	増加指標	%	58.2	目標値	58.6	58.8	59.0	59.5	60.0	58.2	58.2	少子化やコロナ禍からの企業の業績回復の影響などにより人手不足が続いており、全国的に有効求人倍率が高いことから、学生の就職先としての選択肢が増加していると考えられ、目標値には達していない。Uターン率の上昇に向け、学生に市内企業の魅力を伝えられるよう、事業を展開する必要があると考える。	今後もハローワークや商工会議所、呉西圏域の各市等と連携をとりながら、UIJターン就職促進事業の取り組みを進めていく。呉西圏域での就業マッチング事業、高校生向けキャリアサポートセミナーや企業説明会の開催、大学訪問のほか、インターンシップ推進事業を通じて、UIJターン就職及び地元定着への意識付けの取り組みを行う。	5年間で目標値に達することはできなかったが、目標値に近い数値で推移している。全国的に有効求人倍率が高く、就職先の選択肢が多岐にわたることから、地元就職への意識が薄まっている可能性がある。学生のUIJターン就職や地元定着への意識付けを行うため、ハローワークや商工会議所、呉西圏域各市等と連携しながら、UIJターン就職促進事業等を展開する必要がある。
							実績値	58.0	57.9	－	55.3	57.9					
							達成率	99.0%	98.5%	－	92.9%	96.5%					
4	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	定住の促進	2025年までの転出・ 転入を均衡(累計) 【再掲(No.1)】	増加指標	人/年 (累計)	▲275(直近5 年間(26～30 年度)の累計 ▲103)	目標値	0	0	0	0	0	0	0	R6年度は、R5年度に比べ県内外からの転入が増加し、548人の転入超過となった。内訳としては、日本人が148人、外国人が400人の転入超過であった。前年度では目標値を大きく下回っていたが、累計で目標値を達成することができた。	引き続き、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる環境の整備に取り組むとともに、魅力的な仕事の創出や働きやすい職場環境づくりを推進する。また、移住イベントやSNSを活用し本市の魅力を発信することにより、転出の抑制と転入の促進を図る。	コロナ禍における移動抑制が緩和されたR3年度に、県外移動が活発化し転出超過が大きくなったことが影響し、R5年度までの累計は目標値を大きく下回っていたが、R6年度には548人の転入超過となり、目標値を達成することができた。また、本市の社会増減は、R2年度以降、県外へは転出超過、県内他市町村からは転入超過の傾向が続いていたが、R6年度には、県外・県内とも転入超過となった。
							実績値	9	▲ 441	▲ 362	▲ 475	73					
							達成率	108.7%	▲ 328.2%	▲ 251.5%	▲ 361.2%	170.9%					
5	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	空き家対策の推進	市内の空き家数(住 宅・土地統計調査に よる空き家のうちそ 他の住宅)の増加率	減少指標	%	7.3 (H25⇒H30の 増加率)	目標値	－	－	－	25以下	－	－	－	5年に1度、国が実施する住宅・土地統計調査により公表されるため、実績値を測れないもの。市内の管理不全な空き家について、助言・指導を実施したほか、これまで助言・指導をしてきた空き家のうち、令和6年能登半島地震により公費解体の対象となるような空家等について、公費解体制度の案内を送付するなど、老朽危険空き家の除却に向けた取り組みを行った。	R7年度にたかおか空き家除却支援事業の対象地域を「まちなか区域」から「用途地域」へ拡充するなど、老朽危険空き家になる前に除却を促すなどの取り組みを引き続き実施するほか、所有者不存在の空家等への対応を実施する。	空き家の利活用や除却等の各種支援策により、R5年住宅土地統計調査では市内空き家の増加率は目標値以下に抑えられており、引き続き、各種取り組みを継続してまいりたい。(本KPIは5年に1回しか測定できないため、R7、R8年度は「空き家・空き地情報バンクへの空き家登録件数の増加率」により「空き家対策の推進」施策の進捗を測る。)
							実績値	－	－	－	10.1	0					
							達成率	－	－	－	－	－					
6	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	空き家対策の推進	(補足指標) 空き家と住まいの総 合相談所に寄せられ た空き家の相談件数 の増加	増加指標	件	55	目標値	61	62	63	65	66	185	187	高岡市空き家活用推進協議会との連携によるパンフレット等の作成・配布等により、空き家に対する意識啓発を図るなどの取り組みを実施し、目標を上回る相談件数となった。	R7年度の固定資産税納税通知書に空き家に関するチラシを同封することで、総合相談所の周知に努めるほか、市民の空き家に対する関心、意識啓発を促進する取り組みにより、空き家相談等を通じた空き家対策の推進を図る。	コロナにより相談会を実施できなかったR2年度を除き、空き家に関する各種情報発信の取組方法により、目標値は達成している。また、継続的な取り組みとして、固定資産税納税通知書への空き家に関するチラシの同封を行ってまいりたい。
							実績値	39	92	154	181	105					
							達成率	63.9%	148.4%	244.4%	278.5%	159.1%					
7	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	関係人口や大学生の まちづくりへの参画の 促進	県内大学卒業生の県 内定着率	増加指標	%	51.9	目標値	52.9	53.9	54.9	55.9	56.9	58.0	58.8	主に富山大学の学生の県内企業への就職率が落ち込み、目標を達成することができなかった。市内にキャンパスがある富山大学・高岡法科大学の学生数が減っているため、学生一人ひとりに地域への愛着形成を促すことを目指したカリキュラムを考える必要がある。	市内にキャンパスがある富山大・高岡法科大について、大学と連携した授業を展開している。地元のまちづくりについて学べるカリキュラムについて大学との連携を強化し、地域への愛着形成を促していくことで、さらなる学生の県内就職率の向上を図る。	R2、3、5年度は目標を達成することができたが、R4、6年度は主に富山大学の学生の県内企業への就職率が落ち込み、目標を達成することができなかった。市内にキャンパスがある富山大・高岡法科大について、地元のまちづくりについて学べるカリキュラムについて連携を強化し、学生一人一人に地域への愛着形成を促していくことで、学生の県内就職率の向上を図る必要がある。
							実績値	54.9	55.2	53.6	56.4	49.1					
							達成率	103.8%	102.4%	97.6%	100.9%	86.3%					
8	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	地元に着定する大学 生へのインセンティブ の付与	県内大学卒業生の県 内定着率 【再掲(No.7)】	増加指標	%	51.9	目標値	52.9	53.9	54.9	55.9	56.9	58.0	58.8	主に富山大学の学生の県内企業への就職率が落ち込み、目標を達成することができなかった。市内にキャンパスがある富山大学・高岡法科大学の学生数が減っているため、学生一人ひとりに地域への愛着形成を促すことを目指したカリキュラムを考える必要がある。	市内にキャンパスがある富山大・高岡法科大について、大学と連携した授業を展開している。地元のまちづくりについて学べるカリキュラムについて大学との連携を強化し、地域への愛着形成を促していくことで、さらなる学生の県内就職率の向上を図る。	R2、3、5年度は目標を達成することができたが、R4、6年度は主に富山大学の学生の県内企業への就職率が落ち込み、目標を達成することができなかった。市内にキャンパスがある富山大・高岡法科大について、地元のまちづくりについて学べるカリキュラムについて連携を強化し、学生一人一人に地域への愛着形成を促していくことで、学生の県内就職率の向上を図る必要がある。
							実績値	54.9	55.2	53.6	56.4	49.1					
							達成率	103.8%	102.4%	97.6%	100.9%	86.3%					
9	①多様なひと が住みたいと 感じるまちを つくる	まちなか居住の推進	まちなか区域におけ る居住支援に伴う居 住人数(累計)	増加指標	人	86	目標値	60	380	440	500	720	780	840	R6年度は420人の居住(目標値)を見込んでいたが、R2年度の方譲マンション(民間再開発事業)竣工とR5年度の方譲マンション(民間再開発事業)竣工によるR6年度末時点の実績値は343人で、目標値を下回った。駅前の居住施設は整ったが、徒歩圏内に日常生活の必要な施設(スーパーやドラッグストア)が不足していることが一因と考えられる。しかしながら、R5年度からR6年度にかけて122人の増加が見られた。	Aゾーンにおける再開発事業について、R2年度から民間事業者に対して支援を行いR5年11月に竣工を迎えた方譲マンションは、更なる居住人口の増加が期待される。	高岡駅前東地区の3つのゾーンのうち、Aゾーンの整備はR5年度の方譲マンション(民間再開発事業)竣工をもって概ね完了した。Bゾーンの3分1はホテル等が整備された。Bゾーンの残り2Cゾーンについて、引き続き民間からの相談等に対応し、整備推進に取り組んでいく。
							実績値	39	293	376	455	622					
							達成率	65.0%	77.1%	85.5%	91.0%	86.4%					
10	②安心して子 どもを生き育 てられるまち をつくる	★数値目標	待機児童の数	維持指標	人	0	目標値	0	0	0	0	0	0	0	本市では待機児童はいないものの、一部の地域では希望する保育所への入園が困難な児童が発生している。需要の多い0～2歳児の保育供給量増加に向け、幼稚園・保育園からの認定こども園への移行を推進している。	待機児童がいない状態を維持しつつ、今後の児童数の推移を踏まえ、認定こども園移行及び施設の統廃合等に向けた取組を進める。	本市では待機児童はいないものの、一部の地域では希望する保育所への入園が困難な児童が発生している。需要の多い0～2歳児の保育供給量増加に向け、幼稚園・保育園からの認定こども園への移行を推進している。
							実績値	0	0	0	0	0					
							達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
11	②安心して子 どもを生き育 てられるまち をつくる	★数値目標	放課後児童クラブの 入所者数	増加指標	人	1,190	目標値	1,406	1,446	1,446	1,526	1,634	1,489	1,563	待機児童がいる公設クラブでは支援員確保が困難であったこと等の理由で利用定員を増加できなかったこと、民設クラブでは利用料が公設より高い等の理由により定員に達しなかったことなどから、目標達成に至らなかった。	R8年度からの公設クラブの新規開設(下関校区＋1)に向けた取り組みに加え、待機児童が多い校区において、新規事業者等への声掛け、民間クラブへの開設支援を継続し、受皿の確保を図っていく。公設クラブの安定運営確保に向け、シルバー人材センターと連携した人材及び事務補助員確保に取り組む。	民間事業者が実施する放課後児童クラブについて、R5年度に2クラブ、R6年度に1クラブ開設したが、目標達成には至らなかった。引き続き、待機児童が多い校区において、新規事業者等への声掛け、民間クラブへの開設支援を継続するとともに、公設クラブの安定運営確保に向け、シルバー人材センターと連携した人材及び事務補助員確保に取り組む、受皿の確保を図っていく。
							実績値	1,290	1,322	1,316	1,341	1,332					
							達成率	91.7%	91.4%	91.0%	87.9%	81.5%					
12	②安心して子 どもを生き育 てられるまち をつくる	★数値目標	10歳未満の子どもの 数(2025年までに 2020年+100人)	増加指標	人	11,984	目標値	12,004	12,024	12,044	12,064	12,084	10,617	10,617	R6年度末時点で10歳未満の子どもの数は10,326人で、目標値を下回っている状況である。コロナ禍をはじめとした社会情勢の変化に伴い、出産を控える傾向があるためと考える。(H26年度出生数…1,206人、R6年度出生数…849人)	安心して子どもを育てられる環境を整えることで、子どもを持ちたいと希望する方の出産、育児に対する支援の充実に取り組んでいく。また、若者・女性働きやすく住みやすい環境づくりを推進し、就職や移住に対する支援を充実することで、若い世代に選ばれるまちづくりを目指す。	10歳未満の子どもの数は年々減少しており、R6年度末時点で10,326人と目標値を下回っている状況である。若者・女性の働く場の確保や支援の充実などにより、安心して子どもを育てられる環境を整えるとともに、支援制度等のさまざまな情報を発信することで、若者・女性に選ばれるまちを目指す。
							実績値	11,449	11,256	11,013	10,617	10,326					
							達成率	95.4%	93.6%	91.4%	88.0%	85.5%					

No.	基本目標	施 策	数値目標・KPI	区分	単位	基準値 (H30年度実績値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度の評価と課題 (分析と対応)	今後の方向性 (R7年度の取組み内容)	中間総括 (R2-R6年度の5年間の分析と対応)
13	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	ワーク・ライフ・バランスの推進	ワーク・ライフ・バランス推進事業所の新規認定数(累計)	増加指標	件	14	目標値	6	12	18	24	30	36	42	国や県はもとより、本市においてもホームページやSNS、高岡商工会議所の会報等からワーク・ライフ・バランスの周知に努めたことにより、新規認定数の増加に繋がった。 今後も、市内事業所にワーク・ライフ・バランス推進の積極的な働きかけを行うとともに、認定事業所の取り組みについて市民等に広く紹介していく必要がある。	各事業所の取組紹介や講演会の開催による啓発活動のほか、市SNSや関係機関を通じた広報活動に取り組み、事業者等への認定申請の働きかけを行う。	人材の確保、定着のために、市内事業所ではワーク・ライフ・バランスの必要性が浸透してきている。これから、市民や市内事業所が参加するイベント等で認定制度・認定事業所の周知とともに、認定事業所の取り組みを共有することで、ワーク・ライフ・バランスに関する意識啓発を図る。
							実績値	13	16	20	24	34					
							達成率	216.7%	133.3%	111.1%	100.0%	113.3%					
14	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	多様な保育サービスの展開	病児保育の実施施設数	増加指標	施設	1	目標値	3	3	3	4	4	3	3	市内病児保育実施施設数の新規開設には至らず、目標とする4施設の設置を達成できなかったが、市内北部、中部、南部とバランスのとれた位置で病児保育を提供しており、3施設で供給体制を確保している。	今後も需要に応じた病児保育の提供を維持していく。	目標とする4施設の設置には至らなかったが、市内北部、中部、南部とバランスのとれた位置で病児保育を提供しており、3施設で供給体制を確保できている。 また、市内の病児保育施設では、市内の児童に加えて、施設の空き状況によっては他市町村の児童も受け入れており、広域的に病児保育サービスを提供している。
							実績値	3	3	3	3	3					
							達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	75.0%					
15	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	イクメンプロジェクトの推進	積極的に育児をしている父親の割合	増加指標	%	65.1	目標値	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0	74.0	75.0	男性の家事・育児参加を促すため、子育てアプリ「ねねネットかおか」における育児情報の発信や、母子健康手帳交付時に父親向けパンフレットの配布を行った。そのほか、パパのサポートの具体例を子育て支援ガイドブック「おおくなあ〜れ」に掲載したり、妊娠期からの育児教室の開催等に啓発を行った。	子育てアプリ「ねねネットかおか」における育児情報の充実を図る。また、引き続き、母子健康手帳交付時に父親向けパンフレット配布を行うほか、家庭訪問や、妊娠期からの育児教室の開催等に取り組み、男性の育児参加を促していく。	積極的に育児に参加している男性は増加傾向である。引き続き、積極的に育児に参加している男性の割合が増えるように啓発してまいりたい。
							実績値	67.5	68.8	68.8	72.2	70.8					
							達成率	102.3%	102.7%	101.2%	104.6%	101.1%					
16	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	結婚期から学童・思春期までのきめ細やかな支援の充実	10歳未満の子どもの数(2025年までに2020年+100人)【再掲(No.12)】	増加指標	人	11,984	目標値	12,004	12,024	12,044	12,064	12,084	10,617	10,617	R6年度末時点で10歳未満の子どもの数は10,326人で、目標値を下回っている状況である。コロナ禍をはじめとした社会情勢の変化に伴い、出産を控える傾向があるためと考える。(H26年度出生数…1,206人、R6年度出生数…849人)	安心して子どもを育てられる環境を整えることで、子どもを持ちたいと希望する方の出産、育児に対する支援の充実に取り組んでいく。また、若者・女性働きやすく住みやすい環境づくりを推進し、就職や移住に対する支援を充実することで、若い世代に選ばれるまちづくりを目指す。	10歳未満の子どもの数は年々減少しており、R6年度末時点で10,326人と目標値を下回っている状況である。若者・女性の働く場の確保や支援の充実などにより、安心して子どもを育てられる環境を整えるとともに、支援制度等のさまざまな情報を発信することで、若者・女性に選ばれるまちを目指す。
							実績値	11,499	11,256	11,013	10,617	10,326					
							達成率	95.8%	93.6%	91.4%	88.0%	85.5%					
17	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	子育てに係る経済的負担の軽減	10歳未満の子どもの数(2025年までに2020年+100人)【再掲(No.12)】	増加指標	人	11,984	目標値	12,004	12,024	12,044	12,064	12,084	10,617	10,617	R6年度末時点で10歳未満の子どもの数は10,326人で、目標値を下回っている状況である。コロナ禍をはじめとした社会情勢の変化に伴い、出産を控える傾向があるためと考える。(H26年度出生数…1,206人、R6年度出生数…849人)	安心して子どもを育てられる環境を整えることで、子どもを持ちたいと希望する方の出産、育児に対する支援の充実に取り組んでいく。また、若者・女性働きやすく住みやすい環境づくりを推進し、就職や移住に対する支援を充実することで、若い世代に選ばれるまちづくりを目指す。	10歳未満の子どもの数は年々減少しており、R6年度末時点で10,326人と目標値を下回っている状況である。若者・女性の働く場の確保や支援の充実などにより、安心して子どもを育てられる環境を整えるとともに、支援制度等のさまざまな情報を発信することで、若者・女性に選ばれるまちを目指す。
							実績値	11,499	11,256	11,013	10,617	10,326					
							達成率	95.8%	93.6%	91.4%	88.0%	85.5%					
18	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	保育環境の向上	待機児童の数【再掲(No.10)】	維持指標	人	0	目標値	0	0	0	0	0	0	0	本市では待機児童はいないものの、一部の地域では希望する保育所への入園が困難な児童が発生している。需要の多い0〜2歳児の保育供給量増加に向け、幼稚園・保育園からの認定こども園への移行を推進している。	待機児童がない状態を維持しつつ、今後の児童数の推移を踏まえ、認定こども園移行及び施設の統廃合等に向けた取組を進める。	本市では待機児童はいないものの、一部の地域では希望する保育所への入園が困難な児童が発生している。需要の多い0〜2歳児の保育供給量増加に向け、幼稚園・保育園からの認定こども園への移行を推進している。
							実績値	0	0	0	0	0					
							達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
19	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	子育て支援情報の発信	子育て支援サイト等のアクセス件数	増加指標	カウント(件)	60,650	目標値	63,000	66,000	69,000	72,000	75,000	109,000	114,000	R6年度の目標値は達成しているものの、R5年度比較では減少となった。 内訳としてアクセス件数全体に占めるHP閲覧数の割合が44.3%(R5)から28.4%(R6)に減少しているのに対し、アプリの閲覧数の割合55.7%(R5)から71.6%(R6)に増加しており、アプリを活用した情報発信が重要になっている。 アプリについては、登録者数、閲覧数が共に増加しているが、登録者数の伸び幅(前年比128.9%)を閲覧数の伸び幅(前年比113.7%)が下回っており、子育て世代のニーズにマッチした積極的な情報発信を継続的に行っていく必要がある。	引き続きアプリの登録を推進していくとともに、「「＃高岡こどもまんなかやってみた」SNS投稿コンテスト」の記事を発信するなど、子育て世代のニーズにマッチした情報を継続的に発信していく。 子育て世代のニーズを掘り起こすためのアンケート調査を行う。	母子手帳発行時にアプリの登録を推進してきたことにより、アプリによる子育て支援情報の受取りが定着してきたと思われる。 引き続き子育て世代のニーズを見極めながら情報発信を行っていく。
							実績値	82,143	94,545	74,923	104,754	92,182					
							達成率	130.4%	143.3%	108.6%	145.5%	122.9%					
20	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	子育て支援の場の拡大	放課後児童クラブの入所者数【再掲(No.11)】	増加指標	人	1,190	目標値	1,406	1,446	1,446	1,526	1,634	1,489	1,563	待機児童がいる公設クラブでは支援員確保が困難であったこと等の理由で利用定員を増加できなかったこと、民設クラブでは利用料が公設より高い等の理由により定員に達しなかったことなどから、目標達成に至らなかった。	R8年度からの公設クラブの新規開設(下関校区+1)に向けた取り組みに加え、待機児童が多い校区において、新規事業者等への声掛け、民間クラブへの開設支援を継続し、受皿の確保を図っていく。 公設クラブの安定運営確保に向け、シルバー人材センターと連携した人材及び事務補助員確保に取り組み、受皿の確保を図っていく。	民間事業者が実施する放課後児童クラブについて、R5年度に2クラブ、R6年度に1クラブ開設したが、目標達成には至らなかった。 引き続き、待機児童が多い校区において、新規事業者等への声掛け、民間クラブへの開設支援を継続するとともに、公設クラブの安定運営確保に向け、シルバー人材センターと連携した人材及び事務補助員確保に取り組み、受皿の確保を図っていく。
							実績値	1,290	1,322	1,316	1,341	1,332					
							達成率	91.7%	91.4%	91.0%	87.9%	81.5%					
21	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	子どもの貧困対策の推進	学習支援事業の定員数	増加指標	人	20	目標値	40	40	40	40	40	40	40	R2年度より、学習支援事業の定員を40名に増員している。	学習支援事業の需要動向も見ながら、今後も学習支援を希望する方が受講できるよう、定員数の確保に努める。(R7年度より、学習支援事業の定員を50名に増員。)	学習支援事業の需要動向をみながら、定員数の増加に努め、受講できる体制を整えることができた。
							実績値	40	40	40	40	40					
							達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%					
22	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	小中一貫教育の推進による学校教育の充実	9年間を通じた系統的・計画的な教育課程が円滑に実践されている学校の割合(小学校)	増加指標	%	34.6	目標値	80	85	90	95	100	90	95	各中学校区において、教育目標等を明記した「グランドデザイン」を作成し、これを基に各校で教育活動を進め、必要に応じて情報共有を行い、進捗状況を確認し、改善を図った。小・中教員の合同研修会の実施や互いの授業参観等、小中一貫教育を推進した。 しかしながら、目標達成には至っておらず、中学校が中心となっており、小中一貫教育を進める校区が多いため、小学校との意識のずれが生じていることが理由と考えられる。	各中学校区ごとに「グランドデザイン」を見直し、各校の教員間で共通理解し、教育活動を進める。また、中学校教員が小学校へ乗り入れ、指導目標を明確にして専門的な指導を行ったり、児童生徒の交流をしたりして、小中一貫教育を推進する。今後、準備が整った校区より学校運営協議員制度を採用し、児童生徒の交流を促すため、小中一貫教育の充実を図る。	各中学校区において、教育目標等を明記した「グランドデザイン」を作成し、これを基に各校で教育活動を進め、情報共有や進捗状況の確認等改善を図った。小・中教員の合同研修会の実施や互いの授業参観等、小中一貫教育を推進した。 中学校が中心となり小中一貫教育を進めているため、小学校との意識のずれが生じている。学校運営協議員制度を取り入れて地域ぐるみの小中一貫教育を目指す。
							実績値	76.0	72.0	72.0	79.2	85.7					
							達成率	95.0%	84.7%	80.0%	83.4%	85.7%					
23	②安心して子どもを生ま育てられるまちをつくる	小中一貫教育の推進による学校教育の充実	9年間を通じた系統的・計画的な教育課程が円滑に実践されている学校の割合(中学校)	増加指標	%	50	目標値	80	85	90	95	100	95	100	各中学校区において、教育目標等を明記した「グランドデザイン」を作成し、これを基に各校で教育活動を進め、必要に応じて情報共有を行い、進捗状況を確認し、改善を図った。小・中教員の合同研修会の実施や互いの授業参観等、小中一貫教育を推進した。 コロナ禍のためできなかった児童生徒の交流(部活動体験や児童生徒会活動)を実施したことで、目標達成につながった。	各中学校区ごとに「グランドデザイン」を見直し、各校の教員間で共通理解し、教育活動を進める。また、中学校教員が小学校へ乗り入れ、指導目標を明確にして専門的な指導を行ったり、児童生徒の交流を促すため、小中一貫教育を推進する。今後、準備が整った校区より学校運営協議員制度を採用し、児童生徒の交流を促すため、小中一貫教育の充実を図る。	各中学校区において、教育目標等を明記した「グランドデザイン」を作成し、これを基に各校で教育活動を進め、必要に応じて情報共有を行い、進捗状況を確認し、改善を図った。小・中教員の合同研修会の実施や互いの授業参観等、小中一貫教育の充実につながった。 コロナ禍のためできなかった児童生徒の交流(部活動体験や児童生徒会活動)を実施できるようになり、小中一貫教育の充実につながった。
							実績値	75	75	75	92	100					
							達成率	93.8%	88.2%	83.3%	96.4%	100.0%					

No.	基本目標	施 策	数値目標・KPI	区分	単位	基準値 (H30年度 実績値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度の評価と課題 (分析と対応)	今後の方向性 (R7年度の取組み内容)	中間総括 (R2-R6年度の5年間の分析と対応)
24	②安心して子どもを生み育てられるまちをつくる	小中一貫教育の推進による学校教育の充実	小学校1校あたりの児童数(適正な学校規模)	増加指標	人	293	目標値	298	293	302	301	342	324	313	R6年4月に、五位小学校と千鳥丘小学校を再編統合し、五位小学校を開校した。また、横田小学校、川原小学校及び西条小学校を再編統合し、高岡西部小学校を開校した。	R10年4月に伏木中学校区において、伏木小学校、古府小学校及び太田小学校を再編統合した統合小学校の開校を予定しており、開校に向け、学校施設整備や、校名、校歌、校章などの検討に取り組む。	R2年2月に策定した「今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について」に基づき、小中一貫教育を推進し、教育環境の充実を図る観点から、小学校の再編統合を進めている。今後ともこの指針に沿って再編統合に取り組み、適正な学校規模の確保に努めていく。
							実績値	304	298	306	296	335					
							達成率	102.0%	101.7%	101.3%	98.4%	98.0%					
25	②安心して子どもを生み育てられるまちをつくる	ICT教育の推進	ICTを活用した授業が日常的に行われている学校の割合(小学校)	増加指標	%	34.6	目標値	45	50	60	80	100	95	100	GIGAスクール構想に基づき、一人一台学習専用端末の整備が進み、共同編集を活用した考えの共有、デジタル教科書の使用、動画視聴、資料提示等で日常的に端末を多用し、ICT活用を推進した。	一人一台学習専用端末の更新により、快適なネットワーク環境で、クラウドベースでのすばい情報共有や配付、デジタル教科書や大型提示装置の活用等、効果的なICT活用を推進する。	GIGAスクール構想に基づき、一人一台学習専用端末の整備が進み、共同編集を活用した考えの共有、デジタル教科書の使用、動画視聴、資料提示等で日常的に端末を多用し、ICT活用を推進した。授業で有効であった活用例を周知することで、一人一台端末の活用をさらに進めていく。
							実績値	96.0	96.0	76.0	83.3	85.8					
							達成率	213.3%	192.0%	126.7%	104.1%	85.8%					
26	②安心して子どもを生み育てられるまちをつくる	ICT教育の推進	ICTを活用した授業が日常的に行われている学校の割合(中学校)	増加指標	%	16.7	目標値	40	50	60	80	100	97	100	GIGAスクール構想に基づき、一人一台学習専用端末の整備が進み、共同編集を活用した考えの共有、デジタル教科書の使用、動画視聴、資料提示等で日常的に端末を多用し、ICT活用を推進した。	一人一台学習専用端末の更新により、快適なネットワーク環境で、クラウドベースでのすばい情報共有や配付、デジタル教科書や大型提示装置の活用等、効果的なICT活用を推進する。	GIGAスクール構想に基づき、一人一台学習専用端末の整備が進み、共同編集を活用した考えの共有、デジタル教科書の使用、動画視聴、資料提示等で日常的に端末を多用し、ICT活用を推進した。
							実績値	91.7	91.7	75.0	91.7	100					
							達成率	229.3%	183.4%	125.0%	114.6%	100.0%					
27	②安心して子どもを生み育てられるまちをつくる	地域文化を活かした独自教育の推進	伝統工芸の銅器や漆器等の制作活動を楽しむことができた児童生徒の割合	増加指標	%	97	目標値	97	97	97	97	97	97	97	実習では、青貝塗りの角皿やコースター、錫のフォトフレームや小物等の製作に取り組んだ。また、小学5年生は、大学、市工芸センター、美術館、伝統工芸士等の地域人材を招聘し、デザイン学習に取り組んだ。高岡の伝統的な技法を生かした作品に触れ、制作する活動を通して、ものづくりの素晴らしさを感じるとともに、郷土を愛し心豊かな生活を創造する態度を育んだ。	R7年度は、ものづくり実習やデザイン制作活動、見学、ふるさと地域学習を行う。高岡市の伝統工芸や地域の産業について、見る、触れる、体験するなどにより、豊かな感性と郷土を愛する心を育てる。	実習では、青貝塗りの角皿やコースター、錫のフォトフレームや小物等の製作に取り組んだ。また、小学5年生は、大学、市工芸センター、美術館、伝統工芸士等の地域人材を招聘し、デザイン学習に取り組んだ。体験的な活動を実施することにより、制作活動の楽しさを味わうことができた。
							実績値	96	96	96	96	95.9					
							達成率	99.0%	99.0%	99.0%	99.0%	98.9%					
28	②安心して子どもを生み育てられるまちをつくる	地域文化を活かした独自教育の推進	地域の歴史的建造物を見学したり、祭りなどの地域行事に参加したりした児童生徒の割合	増加指標	%	65.9	目標値	70	70	70	70	70	85	85	祭りなどの行事は通常どおり開催されるようになり、児童生徒が実際に見学したり参加したりする機会が増えてきた。また、学習資料や地域の人材を生かしたふるさと学習やデザイン学習を行うことで、高岡市の歴史的建造物や祭りに対する関心が高まった。	ふるさと地域学習を支える校外学習の実施の推奨や学習専用端末を活用したふるさと学習の充実を図る。	祭りなどの行事は通常どおり開催されるようになり、児童生徒が実際に見学したり参加したりする機会が増えてきた。また、学習資料や地域の人材を生かしたふるさと学習やデザイン学習を行い高岡について知る機会が増えるに従い、高岡市の歴史的建造物や祭りに対する関心が高まった。
							実績値	81	83	81	82.5	83.0					
							達成率	115.7%	118.6%	115.7%	117.9%	118.6%					
29	②安心して子どもを生み育てられるまちをつくる	地域文化を活かした独自教育の推進	身の回りや地域の課題に対し、自分の考えを根拠に基づいて論理的にまとめ、相手に伝えることができた児童生徒の割合	増加指標	%	-	目標値	95	75	80	80	80	90	90	R6度も評価項目14の目標値を達成できた。論理コミュニケーション学習のための遠隔授業がより効果的に実施できるよう、講師陣と授業の様子等について情報共有を行うとともに、教員の役割や留意点をまとめたリーフレットを作成した。各校に配付し、遠隔授業の取り組み方について周知を図った。	引き続き、昨年度の振り返りを基に、事前打ち合わせ会を実施し、論理コミュニケーションのねらいや内容、オンラインの接続方法等について情報共有することで、ねらいや目指す子供の姿を把握した上で、取り組む。今年度もふるさとに関わるテーマを設定し、論述力の育成とともに、ふるさと教育の充実を図る。	グループワーク等、表現の場を増やし、内容の充実を図るとともに、事前の聞き取り調査や各校との打ち合わせを通して、趣旨を共有し、課題や実態を把握した上で、手立てを工夫することで、目標値の達成につながっている。さらに、遠隔授業がより効果的に実施できるよう、教員の役割や留意点をまとめたリーフレットを作成し、各校に配付することで、遠隔授業の取り組み方について周知を図った。。
							実績値	72.0	75.0	83.9	86.3	83.1					
							達成率	75.8%	100.0%	104.9%	107.9%	103.9%					
30	③魅力的なしごとに挑戦できるまちをつくる	★数値目標	創案件数(累計)	増加指標	件	168	目標値	120	240	360	480	600	867	987	R6年度の目標値を約40%上回っており、順調に推移している。これまで取り組んできたTASUの開設をはじめ、金融機関や産業支援機関等による創業相談、高岡市/富山銀行コンソーシアム創業支援事業等の取り組みの効果があつたものと捉えている。	引き続き、支援体制の充実や、女性起業家のコミュニティ形成の促進、こどもへの起業家教育を実施するなど、長期的な視点を持ちながら、起業・創業の支援強化に取り組む。	これまで取り組んできた金融機関や産業支援機関等による創業相談に加え、R5年3月のTASUの開設やR5年11月の高岡市/富山銀行コンソーシアム創業支援事業の開始など、創業支援体制の整備を進めた結果、目標値を大きく超えて順調に推移している。引き続き、支援体制の充実を図るとともに、長期的な視点で起業・創業の支援強化を行っていく。
							実績値	171	320	498	627	822					
							達成率	142.5%	133.3%	138.3%	130.6%	137.0%					
31	③魅力的なしごとに挑戦できるまちをつくる	★数値目標	高岡市の観光客入込数(暦年)	増加指標	万人/年	385	目標値	389	390	392	394	396	374	385	令和6年能登半島地震の影響で目標値を下回っており、特に伏木地区の落ち込みが目立った。観光需要の回復に向け、宿泊割引クーポンの配布や飲食クーポンの割引販売、インバウンド向け高付加価値旅行商品の造成、観光ポータルサイトリニューアルをはじめとする情報発信の強化等を行った。	R6年度に実施した宿泊割引クーポンの配布を引き続き実施し、宿泊者の属性を調査するとともに高岡への来訪・宿泊を促す。R6年度に造成した高付加価値旅行商品のプロモーション、入込が落ち込んだ伏木地区をはじめとする観光コンテンツの情報発信強化など、誘客促進の取組みを引き続き行っていく。また、伏木・吉久地区の観光地周辺区域における賑わい集積開業等支援事業の補助率・限度額を拡充しており、引き続き、同地区における開業を支援していく。	新型コロナウイルス感染症の影響による入込数の落ち込みの回復を目指していたが、R4・5年度ともに目標値には及ばず、さらにR6年1月に能登半島地震が発生したことにより、目標値を達成することができなかった。宿泊促進の取組み、既存旅行商品の磨き上げ、魅力的な観光コンテンツの情報発信を継続し、誘客促進を図っていく。
							実績値	183	183	276	351	313					
							達成率	47.0%	46.9%	70.4%	89.1%	79.0%					
32	③魅力的なしごとに挑戦できるまちをつくる	ものづくり技術等を活かした新分野・新事業の展開支援	企業訪問における新商品開発販路開拓等相談件数	増加指標	件	100	目標値	103	106	109	112	115	92	100	R6年度より、米国中西部を対象として、バイヤー招へい事業やECサイトでのテストマーケティング、シカゴでの視察・商談の実施など、海外販路開拓に特に力を入れて取り組んだ結果、関連する相談等が増加し、目標値を達成した。	R7年度も引き続き、海外販路開拓に力を入れて取り組むこととしており、過去に制度を活用したことがある企業だけでなく、新規企業の掘り起こしを進めるため、情報収集及び企業訪問を実施し、支援策の周知に努める。	R5年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後、都市圏や海外へ向けた企業の販路開拓が活発になったことから、相談件数が増加傾向に転じ、R6年度に目標値を達成した。引き続き、企業訪問等を通じて支援策の周知を図るとともに、企業ニーズに合致した支援策に繋げる。
							実績値	84	84	56	75	115					
							達成率	81.6%	79.2%	51.4%	67.0%	100.0%					
33	③魅力的なしごとに挑戦できるまちをつくる	海外への販路の拡大	バイヤー招へい事業での成約件数(累計)	増加指標	件	8	目標値	7	14	21	28	35	29	36	例年実施しているバイヤー招へい事業では、工場見学や多様な製品を実際に手に取ること、製品のストーリーや付加価値をより深く理解していただいている。R6年度からは、更に米国中西部地域販路開拓支援事業を開始し、招へいするバイヤーの増加、ECサイトでのテストマーケティングへの展開等、取組を強化した結果、成約件数を飛躍的に伸ばすことができた。	引き続き、事業を実施していくとともに、事業者自身の海外展開力強化を図るため、英語や海外ビジネスノウハウ等の研修等を実施する。	R3・4年度はコロナ禍の最中であり、バイヤー招へい事業を実施できず実績を伸ばすことができなかったが、オンライン商談会を開催するなど、一定の事業継続を行った。R6年度からは更なる販路拡大を目指し、米国中西部地域販路開拓支援事業を開始し、大きな成果を得ることができており、事業者自身の海外展開力強化を図りながら、引き続き事業を実施していく。
							実績値	10	10	10	15	49					
							達成率	142.9%	71.4%	47.6%	53.6%	140.0%					
34	③魅力的なしごとに挑戦できるまちをつくる	地域資源を活かした農業の競争力強化	農産物(軟弱野菜・にんじん)の販売額	増加指標	億円	0.9	目標値	1.3	1.5	1.7	1.9	2.1	0.9	0.9	軟弱野菜は、若手生産者が増えたが、それ以上に高齢化が進んでおり、今後、生産量の低下が予想されるため、新規就農者の参入を促し、生産に必要な耐雪型/パイプハウスの導入も引き続き行い、生産量の増加を目指す。にんじんは、県・JAと連携しながら、夏場の高温対策を徹底し、生産量の向上を図り、販売額の増加を目指す。	軟弱野菜は、若手生産者が増えたが、それ以上に高齢化が進んでおり、今後、生産量の低下が予想されるため、新規就農者の参入を促し、生産に必要な耐雪型/パイプハウスの導入も引き続き行い、生産量の増加を目指す。にんじんは、県・JAと連携しながら、夏場の高温対策を徹底し、生産量の向上を図り、販売額の増加を目指す。	軟弱野菜は、既存生産者の高齢化による生産量の減少が続いている。また、家族内継承もできず、ほとんどが後継者がいないため、第3者継承も行っていけるよう、県・JA等の関係機関と連携しながら、継承への体制整備をさらに行っていく。にんじんは、法人等の担い手を中心として栽培しているが、近年の異常的な高温による影響で製品率が低下している。そのため、県・JA等の関係機関と連携し、高温対策の徹底をはじめ、生産拡大に必要な機械等の導入支援を引き続き行っていく。
							実績値	0.8	0.7	0.6	0.7	0.7					
							達成率	61.5%	46.7%	35.3%	36.8%	33.3%					

No.	基本目標	施 策	数値目標・KPI	区分	単位	基準値 (H30年度実績値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度の評価と課題 (分析と対応)	今後の方向性 (R7年度の取組み内容)	中間総括 (R2～R6年度の5年間の分析と対応)
35	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	事業承継の推進、担 い手や人材確保の促 進	事業承継に関する相 談件数(累計)	増加指標	件	13	目標値	30	60	90	120	150	158	188	事業承継は、譲渡し側は廃業することになるため、積極的に 相談しにくい案件であり、これまでアンケートに基づく企業訪 問により個別に対応してきたが、相談件数は伸びず、目標値 を達成できなかった。R6年度に国の調査事業を活用し、課題 や方向性の検証を行ったことから、その結果を踏まえた効果 的効率的な体制整備を図り、相談件数の増加につなげる。	事業承継の方法として、親族内承継や従業員承継から第三 者承継に移行する傾向があることから、このことを踏まえ、経 営手法の一つであることの周知及び機運醸成を図る取組を 進めていく。また、R6年度に実施した国の調査事業で得られ た結果を踏まえ、対応策の見直しを図る。	これまでのアンケートに基づく企業訪問を主とする取組では、 目標値には至らなかった。R7年度からは、最近の事業承継 の傾向である、第三者承継に向けて、経営手法の一つである ことの周知及び機運醸成を図る取組を進める。また、国の調 査事業で得られた結果を踏まえ、対応策の見直しを図る。
							実績値	12	34	86	98	115					
							達成率	40.0%	56.7%	95.6%	81.7%	76.7%					
36	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	地場・伝統産業の基 盤強化	伝統産業生産額の維 持	維持指標	百万円/ 年	11,495	目標値	11,495	11,495	11,495	11,495	11,495	11,292	11,495	R5年度より若干回復したものの、R6年度も目標値を達成でき なかった。ライフスタイルの変化による高級品の需要低下や 担い手不足による事業所の減少等が要因と考えられる。R6 年度はこれまで実施してきた後継者育成や販路開拓等のほ か、海外販路開拓に対する支援を強化して実施しており、今 後も海外のニーズを捉えた効果的な販路開拓支援を行って いく。	伝統産業関連の組合や団体等について継続的に支援すると ともに、R6年能登半島地震で被災した伝統産業事業者に対 する支援策を引き続き実施する。また、海外のニーズをとらえ た効果的な海外販路開拓支援を行っている。	R2年度からR4年度にかけては生産額が減少していたが、 R5・6年度においては堅調に増加しており、回復傾向にある。 R7以降については、これまでの取組に加え、海外販路開拓 支援を強化して取り組む。
							実績値	10,663	9,850	9,804	10,885	10,933					
							達成率	92.8%	85.7%	85.3%	94.7%	95.1%					
37	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	企業誘致・立地の促 進	立地助成制度の採択 件数(累計)	増加指標	件	15	目標値	10	20	30	40	50	43	53	目標値に達しなかった要因として、市内全ての団地が売断し たこと、補助要件である新規雇用が確保できなかったこと等 により、申請を見合わせたことが考えられる。このため、R5年 度からは、空き工場などを活用した場合、雇用要件を必要と しない新たな制度の創設や、投資額の要件緩和、またR6年 度においては、生産施設以外(外構、倉庫等)も補助対象とな るよう拡充した。	R7年度からは人手不足の状況下でも女性の活躍の場を広げ たい観点から、女性の雇用1名につき2名分のカウントができ るよう雇用要件を緩和したところである。また、R6年能登半島 地震で被災した企業を支援する「事業つなぎ補助金」も継続し て実施する。これらの支援策が活用され、設備投資の促進が 図られるよう、企業立地セミナーや企業訪問にて支援制度を より積極的にPRしていく。	R2～6年度を通じて目標値を達成できなかったが、回復基調 にある。アンケートやヒアリングから、市内の過半数を超える 企業が人材確保や育成、省力化・生産性向上のための設備 投資及び原油価格や物価高騰等に対する課題を抱えている 状況を把握しており、企業の投資意欲を更に高めるため、こ れらの企業ニーズに合わせた改正を検討しながら、開発や販 路開拓等、トータル面でサポートしていく。
							実績値	5	11	17	23	33					
							達成率	50.0%	55.0%	56.7%	57.5%	66.0%					
38	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	創業のシーズ発掘強 化と創業者の事業段 階に応じた支援	創業件数(累計) ※観光地及び中心市 街地での開業件数を 含む 【再掲(No.30)】	増加指標	件	168	目標値	120	240	360	480	600	867	987	R6年度の目標値を約40%上回り、順調に推移している。これ まで取り組んできたTASUの開設をはじめ、金融機関や産業 支援機関等による創業相談、高岡市/富山銀行コンソーシア ム創業支援事業等の取り組みの効果があったものと捉えて いる。	引き続き、支援体制の充実や、女性起業家のコミュニティ形 成の促進、こどもへの起業家教育を実施するなど、長期的な 視点を持ちながら、起業・創業の支援強化に取り組む。	これまで取り組んできた金融機関や産業支援機関等による創 業相談に加え、R5年3月のTASUの開設やR5年11月の高岡 市/富山銀行コンソーシアム創業支援事業の開始など、創業 支援体制の整備を進めた結果、目標値を大きく超えて順調に 推移している。引き続き、支援体制の充実を図るとともに、長 期的な視点で起業・創業の支援強化を行っている。
							実績値	171	320	498	627	822					
							達成率	142.5%	133.3%	138.3%	130.6%	137.0%					
39	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	中心市街地・観光地 における開業の支援	開業件数(累計)	増加指標	件	12	目標値	10	20	30	40	50	85	95	R6年度の実績値は85件となっており、目標値を大きく上回っ ている。R6年度に開業した20件のうち19件に対し賑わい集積 開業等支援事業による支援を行っていることから、当支援は 中心市街地、観光地周辺のにぎわいに効果をもたらしている と考えられる。令和6年度は令和6年能登半島地震で被災し た事業者の営業再開や移転開業があったこととあわせて、テ ストマーケティングの場でもある「御旅屋人マーケット」の取組 みや、高岡まちなかスタートアップ支援施設「TASU」での伴走 支援の取組みによる機運醸成、空き店舗情報のHP「たか おかストリート」での紹介することによる利用希望者とのマッ チング促進などの取組みを行った。	R7年度以降も、中心市街地や観光地における新規開業店舗 数に直接的に寄与する事業として、引き続き開業支援を行 う。また、テストマーケティングの場である御旅屋人マーケッ トの開催やTASUでの支援を行っていく。	R2～R6いずれの年度においても目標値を超える新規開業件 数となった。引き続き支援を行い、にぎわいづくりにつなげて いく。
							実績値	17	31	51	65	85					
							達成率	170.0%	155.0%	170.0%	162.5%	170.0%					
40	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	広域観光の推進	高岡駅及び新高岡駅 乗降客数(1日当た り)	増加指標	人/日	24,028	目標値	18,000	18,000	18,000	18,000	25,200	-	-	高岡駅・新高岡駅ともに、乗降客数は前年度を上回り回復基 調にあるものの、目標達成には至っていない。あいの風とや ま鉄道及びJR城端線・氷見線では、定期券以外の利用者数 がコロナ禍前を上回る実績となっており、各交通機関の利用 促進事業に継続的に取り組む必要がある。	関西圏からの個人旅行者の誘客や北陸地域内における誘 客・送客による新高岡駅の利用促進に取り組む。また、城端 線・氷見線における交通系ICカードの導入による利便性向上 や城端線の増便試行の継続などによる両駅の利便性向上、 高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」を深く 体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光 プロモーションに取り組む。 (本KPIよりも直接的に新高岡駅・高岡駅の利用実態を把握で きることから、R7、R8年度は「新高岡駅・高岡駅の利用者数」 により「広域観光の推進」施策の進捗を測る。)	両駅の利用者数は回復基調にあるものの、コロナ禍前の水 準には戻っていないことから、引き続き、呉西・飛越能地域 の玄関口である新高岡駅の利用促進に取り組む。また、両駅と 市内観光地や飛越能地域とを結び2次交通の利便性向上 や、高岡の歴史文化やものづくり産業といった「高岡らしさ」 を深く体験できる着地型旅行商品の提案、広域連携による観光 プロモーションに取り組む。
							実績値	17,332	18,208	20,486	21,800	22,704					
							達成率	96.3%	101.2%	113.8%	121.1%	90.1%					
41	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	観光地の魅力の向上 と発信	高岡市の観光客入込 数(暦年) 【再掲(No.31)】	増加指標	万人/年	385	目標値	389	390	392	394	396	374	385	令和6年能登半島地震の影響で目標値を下回っており、特に 伏木地区の落ち込みが目立った。観光需要の回復に向け、 宿泊割引クーポンの配布や飲食クーポンの割引販売、インバ ウンド向け高付加価値旅行商品の造成、観光ポータルサイト リニューアルをはじめとする情報発信の強化等を行った。	R6年度に実施した宿泊割引クーポンの配布を引き続き実施 し、宿泊者の属性を調査するとともに高岡への来訪・宿泊を 促す。R6年度に造成した高付加価値旅行商品のプロモー ション、入込が落ち込んだ伏木地区をはじめとする観光コン テンツの情報発信強化など、誘客促進の取組みを引き続き行っ ていく。また、伏木・吉久地区の観光地周辺区域における賑 わい集積開業等支援事業の補助率・限度額を拡充しており、 引き続き、同地区における開業を支援していく。	新型コロナウイルス感染症の影響による入込数の落ち込み の回復を目指していたが、R4・5年度ともに目標値には及ば ず、さらにR6年1月に能登半島地震が発生したことにより、目 標値を達成することができなかった。観光促進の取組み、既 存旅行商品の磨き上げ、魅力的な観光コンテンツの情報発 信を継続し、誘客促進を図っていく。
							実績値	183	183	276	351	313					
							達成率	47.0%	46.9%	70.4%	89.1%	79.0%					
42	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	MICE(コンベンション 等)及びインパウンド の誘致促進	外国人宿泊者数(年 間)	増加指標	人/年	10,511	目標値	11,880	12,565	13,250	13,935	14,620	9,090	10,511	前年度比増となっているものの、目標値は達成できなかった。 コロナ禍が明けてからは市内を訪れる外国人旅行者数は回 復傾向にあったものの、令和6年能登半島地震が影響した ものと考えられる。	R6年度に造成した体験型旅行商品「高岡雅美プレミアム」の 海外プロモーション、台湾旅遊展への出展など、インパウン ドに誘客に向けた旅行商品の売り込みを積極的に行う。コンベン ション施設やコンベンション補助制度の周知、アフターコン ベンションを意識した観光情報の発信を強化することで開催地 としての付加価値をアピールし、高岡を開催地として選んでも らえるよう取り組んでいく。	新型コロナウイルス感染症によりR2年度に急激に落ち込んだ が、R5年度の5類移行後、インパウンドの旅行需要が高まっ ている現状をとらえ、インパウンドに向けたプロモーションを強 化していく。また、アフターコンベンションを意識した市内観光 情報の発信を強化することで開催地としての付加価値をア ピールし、高岡を開催地として選んでもらえるよう取り組み、コ ロナ禍以前の水準までの回復を目指していく。
							実績値	2,414	1,714	2,412	6,248	9,369					
							達成率	20.3%	13.6%	18.2%	44.8%	64.1%					
43	③魅力的なし ごとに挑戦で きるまちをつく る	観光関連産業の活性 化	高岡市の観光客入込 数(暦年) 【再掲(No.31)】	増加指標	万人/年	385	目標値	389	390	392	394	396	374	385	R6年度に実施した宿泊割引クーポンの配布を引き続き実施 し、宿泊者の属性を調査するとともに高岡への来訪・宿泊を 促す。R6年度に造成した高付加価値旅行商品のプロモー ション、入込が落ち込んだ伏木地区をはじめとする観光コン テンツの情報発信強化など、誘客促進の取組みを引き続き行っ ていく。また、伏木・吉久地区の観光地周辺区域における賑 わい集積開業等支援事業の補助率・限度額を拡充しており、 引き続き、同地区における開業を支援していく。	R6年度に実施した宿泊割引クーポンの配布を引き続き実施 し、宿泊者の属性を調査するとともに高岡への来訪・宿泊を 促す。R6年度に造成した高付加価値旅行商品のプロモー ション、入込が落ち込んだ伏木地区をはじめとする観光コン テンツの情報発信強化など、誘客促進の取組みを引き続き行っ ていく。また、伏木・吉久地区の観光地周辺区域における賑 わい集積開業等支援事業の補助率・限度額を拡充しており、 引き続き、同地区における開業を支援していく。	新型コロナウイルス感染症の影響による入込数の落ち込み の回復を目指していたが、R4・5年度ともに目標値には及ば ず、さらにR6年1月に能登半島地震が発生したことにより、目 標値を達成することができなかった。宿泊促進の取組み、既 存旅行商品の磨き上げ、魅力的な観光コンテンツの情報発 信を継続し、誘客促進を図っていく。
							実績値	183	183	276	351	313					
							達成率	47.0%	46.9%	70.4%	89.1%	79.0%					
44	④誰もが自分 らしく活躍し、 地域が輝き続 ける創造的な まちをつくる	★数値目標	居住誘導区域内の 人口密度	維持指標	人/ha	40 (H27実績)	目標値	40	40	40	40	40	40	40	居住誘導区域内の人口密度は、H27年度からR6年にかけて 2.3人/ha減少している。本市のDID(人口集中地区)面積が拡大 (H27:23.6km2→R2:24.7km2)する一方で、人口密度は減少 (H27:36.7人/ha→R2:33.9人/ha)していることから、低密 度な市街地の拡大が進行している。高岡駅前においてH30か らマンション立地への支援や駅北口交流広場の整備を行い、 居住人口の増加が図られた。また、誘導区域内を対象とした 居住支援制度をR元年度から始めており、市HPや立地適正 化計画に関する届出時等と同制度を紹介しているが、現在まで 居住誘導区域内の人口密度の改善までには至っていない。	R5年度から新婚世帯の住宅取得に関する支援を拡充してお り、各支援制度の更なる周知に取り組む。また、公共交通施 策とも連携を図り、徒歩や公共交通を利活用するライフス タイルの提案に努めていく。	居住誘導区域内の人口密度は下落している。一方で中心市 街地人口は増加している。立地適正化計画に基づきコンパ クト・アンド・ネットワーク型の都市構造に向けて居住誘導区 域内への誘導施策を推進するとともに、低未利用土地の解消に 向けた取組の検討を進め、施策の達成状況・効果の評価等 を検証し、改善を図っていくとともに、交流人口の拡大に取 組んでまいりたい。
							実績値	38.9	38.5	38.1	38.0	37.7					
							達成率	97.1%	96.4%	95.3%	95.0%	94.3%					

No.	基本目標	施 策	数値目標・KPI	区分	単位	基準値 (H30年度 実績値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度の評価と課題 (分析と対応)	今後の方向性 (R7年度の取組み内容)	中間総括 (R2～R6年度の5年間の分析と対応)
45	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	★数値目標	公共交通人口カバー率	増加指標	%	77.2	目標値	81.8	82.2	82.8	83.0	83.2	－	－	5年に1度、国が実施する国勢調査により公表される人口データに基づき算出されるため、実績値を測れないもの。木津地区、野村地区において市民協働型地域交通システムが本格運行となったことで、市内での導入地区は5地区となり、公共交通人口カバー率の改善に寄与した。	戸出地区において市民協働型地域交通システムの導入に向けた取組を開始することから、実証運行、本格運行へと導けるよう伴走して支援を行う。	今後は骨格的公共交通の維持に努めながら、市民協働型地域交通システム導入地区を拡大していくことで公共交通人口カバー率の向上に取組む。 〔「高岡市 地域公共交通計画（R6～R10）」が策定されたことに伴い、R7、R8年度は当該計画の指標「国が位置付ける公共交通不便地域の割合」を数値目標とする。〕
							実績値	－	74.5	－	－	－					
							達成率	－	90.6%	－	－	－					
46	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	★数値目標	関係人口の増加人数(累計)	増加指標	人	0	目標値	200	400	600	800	1,000	27,000	30,000	目標値を達成することができたが、ふるさと納税寄附者数の伸びが鈍化し、関係人口が伸び悩んだ。本市の魅力や返礼品である地場産品の魅力を積極的に発信することで、寄附者増を目指し、関係人口の更なる増加につなげる。	本市の魅力やふるさと納税に関する情報発信を通じた本市ファンの獲得に加え、地域課題の発信により本市への関わりしるを明示し、本市の課題のために協力してくれる関係人口の獲得を図る。	5年間をとおして関係人口を増加させることができた。引き続き、本市の魅力やふるさと納税に関する情報発信を通じた本市ファンの獲得に努めるとともに、本市の施策に共感し応援してくださる方の増加に向けて積極的に取り組む。
							実績値	7,448	11,666	11,040	14,480	9,254					
							達成率	3,724.0%	2,916.5%	1,840.0%	1,810.0%	925.4%					
47	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	★数値目標	地域共生社会の実現に向け、情報共有・連携強化の場となる会議の開催回数	増加指標	回	68	目標値	82	82	82	82	82	68	68	R6年度は、あっさり福祉推進モデル事業を二塚地区、博労地区、及び成美地区で実施したが、開催地区数は当初の想定より伸び悩んだ。主な要因として、地区間での日程調整や住民側の調整負担が大きく、十分な合意形成が得られなかった点が挙げられる。一方で、ケアネット事業関連の会議が増加したことにより、協議の場全体としては回数が増加傾向にある。 ただし、単に回数を増やすのではなく、住民主体で地域課題を議論する「質のある協議の場」を広げていくことが重要な課題となっている。参加の継続性や主体性の確保も、今後の重点的な改善ポイントである。	これまでのモデル事業やケアネットの枠組みを生かしつつ、住民の主体的な参画を促進する仕掛け(例：活動事例の可視化など)を強化する。また、「あっさり福祉ネット関連会議」や「支え合う地域づくり会議」を定期的に開催し、各地区の特色に応じた支援・調整を行う。 R7年度からは「たかおかつながるプロジェクト」として再編し、単なる会議開催数の増加ではなく、住民が“継続的に話し合いに”参加できる環境を整えていく。また、開催回数のみにとられず、会議の中身にも着目した評価指標の見直しも検討する。	R4～6年度の3年間で協議の場の開催回数は増加傾向にあるが、いずれの年度も目標には未達であった。これは、地域間格差・住民の担い手不足・事業の導入調整に要する時間的制約などが主な課題として挙げられる。 今後は、地区ごとの事情に即した柔軟な支援や、市社協等との連携による調整機能の強化を通じて、住民が継続して話し合いに参加できる環境を整えていく。
							実績値	55	10	35	53	71					
							達成率	67.1%	12.2%	42.7%	64.6%	86.6%					
48	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	空き家対策の推進(再掲)	市内の空き家数(住宅・土地統計調査による空き家のうちその他の住宅)の増加率【再掲(No.5)】	減少指標	%	7.3 (H25⇒H30の増加率)	目標値	－	－	－	25以下	－	－	－	5年に1度、国が実施する住宅・土地統計調査により公表されるため、実績値を測れないもの。 市内の管理不全な空き家について、助言・指導を実施したほか、これまで助言・指導をしてきた空き家のうち、令和6年能登半島地震により公費解体の対象となるような空家等について、公費解体制度の案内を送付するなど、老朽危険空き家の除却に向けた取り組みを行った。	R7年度にたかおか空き家除却支援事業の対象地域を「まちなか区域」から「用途地域」へ拡充するなど、老朽危険空き家になる前に除却を促すなどの取り組みを引き続き実施するほか、所有者不存在の空家等への対応を実施する。	空き家の利活用や除却等の各種支援策により、R5年住宅土地統計調査では市内空き家の増加率は目標値以下に抑えられており、引き続き、各種取り組みを継続していく。 (本KPIは5年に1回しか測定できないため、R7、R8年度は「空き家・空き地情報バンクへの空き家登録件数の増加率」により「空き家対策の推進」施策の進捗を測る。)
							実績値	－	－	－	10.1	－					
							達成率	－	－	－	－	－					
49	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	空き家対策の推進(再掲)	(補足指標) 空き家と住まいの総合相談所に寄せられた空き家の相談件数の増加【再掲(No.6)】	増加指標	件	55	目標値	61	62	63	65	66	56	112	高岡市空き家活用推進協議会との連携によるパンフレット等の作成・配布等により、空き家に対する意識啓発を図るなどの取り組みを実施し、目標を上回る相談件数となった。	R7年度の固定資産税納税通知書に空き家に関するチラシを同封することで、総合相談所の周知に努めるほか、市民の空き家に対する関心、意識啓発を促進する取り組みにより、空き家相談等を通じた空き家対策の推進を図る。	コロナにより相談会を実施できなかったR2年度を除き、空き家に関する各種情報発信の取組方法により、目標値は達成している。また、継続的な取り組みとして、固定資産税納税通知書への空き家に関するチラシの同封を行ってまいりたい。
							実績値	39	92	154	181	105					
							達成率	63.9%	148.4%	244.4%	278.5%	159.1%					
50	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	まちなか居住の推進(再掲)	まちなか区域における居住支援に伴う居住人数(累計)【再掲(No.9)】	増加指標	人	86	目標値	60	380	440	500	720	780	840	たかおか暮らし支援事業と併用ができない国の支援制度の利用により、申請数が減少し、目標値には達しなかった。ただ、まちなか区域への定住は一定数見込まれることから、補助の対象等が変化する国の支援制度に影響されず、継続的な制度の実施が必要である。	定住の維持に結び付くリフォームに対する支援制度の更なる周知に努めるほか、除却支援等の各種支援事業の活用による住環境の改善を図り、まちなか区域への居住促進に取り組む。	年度ごとに世帯人数等による居住人数の変動があるものの、平均値では目標に僅かに届かない状況となっている。また、国の支援制度を選択した場合、実績には表れていない部分もあることから、本制度の継続的な実施により、長期的な動向に注視する必要がある。
							実績値	39	293	376	455	622					
							達成率	65.0%	77.1%	85.5%	91.0%	86.4%					
51	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	中心市街地、中心商店街の活性化、消費の拡大	1日あたりの歩行者通行量(年間)	増加指標	人	14,425 (R1実績)	目標値	14,789	15,153	15,517	16,517	17,517	13,899	14,425	R6年度の歩行者通行量調査全体の数値は、目標値には達しなかったものの、R5年度より4,000人以上増加し、100%に近い達成率となった。これは、調査日が気温、天候に恵まれ、徒歩や自転車での周遊が増加していたこと、特に休日の歩行者増加量が多く、中心市街地で開催された複数のイベントを起点とした周遊が生まれたことが要因とみられる。	引き続き、リノベーションまちづくり事業やまちなかスタートアップ支援事業の進展等による、魅力あるまちづくりを行う。また、来街意欲を高めるイベントを開催して中心市街地への来訪を促すことにより、賑わいの創出につなげる。	目標値を達成することはできなかったが、R2～R6年度にかけて右肩上がりの実績であり、R6年度には100%に近い達成率となった。引き続きリノベーションまちづくり事業やまちなかスタートアップ支援事業の進展等による、魅力あるまちづくりを行い、コンセプトを定めた誘引性の高いイベントを開催することで、賑わいの創出につなげていく。
							実績値	10,149	10,898	12,217	12,845	16,880					
							達成率	68.6%	71.9%	78.7%	77.8%	96.4%					
52	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	リノベーションまちづくりの推進	1日あたりの歩行者通行量(年間)【再掲(No.51)】	増加指標	人	14,425 (R1実績)	目標値	14,789	15,153	15,517	16,517	17,517	13,899	14,425	R6年度の歩行者通行量調査全体の数値は、目標値には達しなかったものの、R5年度より4,000人以上増加し、100%に近い達成率となった。これは、調査日が気温、天候に恵まれ、徒歩や自転車での周遊が増加していたこと、特に休日の歩行者増加量が多く、中心市街地で開催された複数のイベントを起点とした周遊が生まれたことが要因とみられる。	引き続き、リノベーションまちづくり事業やまちなかスタートアップ支援事業の進展等による、魅力あるまちづくりを行う。また、来街意欲を高めるイベントを開催して中心市街地への来訪を促すことにより、賑わいの創出につなげる。	目標値を達成することはできなかったが、R2～R6年度にかけて右肩上がりの実績であり、R6年度には100%に近い達成率となった。引き続きリノベーションまちづくり事業やまちなかスタートアップ支援事業の進展等による、魅力あるまちづくりを行い、コンセプトを定めた誘引性の高いイベントを開催することで、賑わいの創出につなげていく。
							実績値	10,149	10,898	12,217	12,845	16,880					
							達成率	68.6%	71.9%	78.7%	77.8%	96.4%					
53	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	市街地間交通ネットワークの連携強化による「多極ネットワーク型」の都市づくり	公共交通人口カバー率【再掲(No.45)】	増加指標	%	77.2	目標値	81.8	82.2	82.8	83.0	83.2	－	－	5年に1度、国が実施する国勢調査により公表される人口データに基づき算出されるため、実績値を測れないもの。木津地区、野村地区において市民協働型地域交通システムが本格運行となったことで、市内での導入地区は5地区となり、公共交通人口カバー率の改善に寄与した。	戸出地区において市民協働型地域交通システムの導入に向けた取組を開始することから、実証運行、本格運行へと導けるよう伴走して支援を行う。	引き続き、骨格的公共交通の維持に努めながら、市民協働型地域交通システム導入地区を拡大していくことで公共交通人口カバー率の向上に取組む。 〔「高岡市 地域公共交通計画（R6～R10）」が策定されたことに伴い、R7、R8年度は当該計画の指標「国が位置付ける公共交通不便地域の割合」を数値目標とする。〕
							実績値	－	74.5	－	－	－					
							達成率	－	90.6%	－	－	－					
54	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	地域連携による経済・生活圏の形成	2025年までの県西部6市(とやま呉西圏域)の転出・転入を均衡(累計)	増加指標	人	▲ 748	目標値	0	0	0	0	0	0	0	R6年(暦年)では、高岡市においては328人の社会増であったが、圏域全体では293人の社会減となった。R6年1月の能登半島地震の影響と考えられる。圏域の経済成長のけん引や都市機能の集積・強化、生活関連機能サービスの向上を図ることで住民が暮らし続けたいと思える圏域づくりを進め、圏域の転出・転入の均衡を目指していく。	これを維持し、ワークショップや作品展示、オープンファクトリー等を通して、ものづくりのまち高岡の技・文化・人に直接触れ合える企画として開催し、同時期に開催される他のイベントとの連携に取り組む。また、R7年度はクルーズ船乗船客の誘客をはじめとしたインバウンドに対応した情報発信や会場における案内人の配置など、国内外からの更なる集客や高岡の魅力発信を図る。	R4年度とR5年度は、単年度では社会増で推移していたが、R6年度には能登半島地震の影響もあり、社会減に転じた。圏域全体としては人口流出に歯止めがかかっていない状況にある。R8年度から開始する第3期とやま呉西圏域連携中核都市圏ビジョンにおいては、時代の潮流や圏域が直面している様々な課題に対応するための5つの新たな視点連携事業に取り入れ、取組を展開することとしている。
							実績値	▲ 1,047	▲ 2,513	▲ 2,513	▲ 2,434	▲ 2,727					
							達成率	▲ 40.0%	▲ 236.0%	▲ 236.0%	▲ 225.4%	▲ 264.6%					
55	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	芸術・文化活動の活性化の推進	文化創造都市高岡推進事業等参加者数(年間)	増加指標	人	クラフト市場街23,000人(H29) ユニークベニュー0人	目標値	25,490	26,030	26,570	27,120	27,670	32,930	33,480	ユニークベニューについては「オンまちなかステージ」を年37回開催し、幅広い層への芸術文化活動、鑑賞の機会を創出した。 市場街のR6年度の実来場者数は、期間中、天候不良であったものの、新たなものを含む100を超えるコンテンツの提供、共催イベントとの連携強化や歩行者天国エリアの拡大など、イベントの魅力向上に取り組んだ結果、前年度の22,530人から22,300人と、横ばいで推移し、全体として目標を達成した。	ユニークベニューについては、出演希望数、鑑賞者数ともに安定しており、まちかどで芸術文化に触れることのできる機会として定着しつつある。今後、自ら公演を企画し、収入を得ようと挑戦するアーティストの育成・支援にも注力していく。 市場街については、これまで来場者数に繋がって来たコンセプトを維持し、ワークショップや作品展示、オープンファクトリー等を通して、ものづくりのまち高岡の技・文化・人に直接触れ合える企画として開催し、同時期に開催される他のイベントとの連携に取り組む。また、R7年度はクルーズ船乗船客の誘客をはじめとしたインバウンドに対応した情報発信や会場における案内人の配置など、国内外からの更なる集客や高岡の魅力発信を図る。	ユニークベニューについては、幅広く事業の周知を図ってきた結果、出演申込数、観覧者数ともに安定しており、アーティストの発表、鑑賞の場として定着しつつある。ユニークベニューをきっかけとしたアーティスト同士の繋がりから市民主導の音楽イベント、また、運営に地域のアーティストを加え、技術・ノウハウの伝承など、人材育成にもなっている。 市場街については、コロナ禍においてもオンライン開催を実施し、継続して市場街やアート・クラフトの魅力を広く発信し続け、R4年度のリアル開催再開後も、より精力的に多くのコンテンツを実施することができ、芸術文化活動の活性化が図られた。その結果、R4年度にはグッドデザイン賞、第27回ふさとイベント大賞(内閣総理大臣賞)を受賞するなど全国レベルでの評価も受けた。
							実績値	21,236	38,324	32,362	31,838	29,833					
							達成率	83.3%	147.2%	121.8%	117.4%	107.8%					

No.	基本目標	施 策	数値目標・KPI	区分	単位	基準値 (H30年度 実績値)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R6年度の評価と課題 (分析と対応)	今後の方向性 (R7年度の取組み内容)	中間総括 (R2～R6年度の5年間の分析と対応)
56	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	関係人口や大学生のまちづくりへの参画の促進(再掲)	県内大学卒業生の県内定着率【再掲(No.7)】	増加指標	%	51.9	目標値	52.9	53.9	54.9	55.9	56.9	58.0	58.8	主に富山大学の学生の県内企業への就職率が落ち込み、目標を達成することができなかった。市内にキャンパスがある富山大学・高岡法科大学の学生数が減っているため、学生一人ひとりに地域への愛着形成を促すことを目指したカリキュラムを考える必要がある。	市内にキャンパスがある富山大・高岡法科大について、大学と連携した授業を展開している。地元のまちづくりについて学べるカリキュラムについて大学との連携を強化し、地域への愛着形成を促していくことで、さらなる学生の県内就職率の向上を図る。	R2、3、5年度は目標を達成することができたが、R4、6年度は主に富山大学の学生の県内企業への就職率が落ち込み、目標を達成することができなかった。市内にキャンパスがある富山大・高岡法科大について、地元のまちづくりについて学べるカリキュラムについて連携を強化し、学生一人一人に地域への愛着形成を促していくことで、学生の県内就職率の向上を図る必要がある。
							実績値	54.9	55.2	53.6	56.4	49.1					
							達成率	103.8%	102.4%	97.6%	100.9%	86.3%					
57	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	地域での支え合いのもと健やかに暮らしていける共生社会の構築	地域共生社会の実現に向け、情報共有・連携強化の場となる会議の開催回数【再掲(No.47)】	増加指標	回	68	目標値	82	82	82	82	82	68	68	R6年度は、あっさり福祉推進モデル事業を二塚地区、博労地区、及び成美地区で実施したが、開催地区数は当初の想定より伸び悩んだ。主な要因として、地区間での日程調整や住民側の調整負担が大きく、十分な合意形成が得られなかった点が挙げられる。一方で、ケアネット事業関連の会議が増加したことにより、協議の場全体としては回数が増加傾向にある。 ただし、単に回数を増やすのではなく、住民主体で地域課題を議論する「質のある協議の場」を広げていくことが重要な課題となっている。参加の継続性や主体性の確保も、今後の重点的な改善ポイントである。	これまでのモデル事業やケアネットの枠組みを生かしつつ、住民の主体的な参画を促進する仕掛け(例：活動事例の可視化など)を強化する。また、「あっさり福祉ネット関連会議」や「支え合う地域づくり会議」を定期的に開催し、各地区の特色に応じた支援・調整を行う。 R7年度からは「たかおかつながプロジェクト」として再編し、単なる会議開催数の増加ではなく、住民が“継続的に話し合い”たくなる仕組みづくり”に重点を置く。	R4～6年度の3年間で協議の場の開催回数は増加傾向にあるが、いずれの年度も目標には未達であった。これは、地域間格差・住民の担い手不足・事業の導入調整に要する時間的制約などが主な課題として挙げられる。 今後は、地区ごとの事情に即した柔軟な支援や、市社協等との連携による調整機能の強化を通じて、住民が継続して話し合いに参加できる環境を整えていく。また、開催回数のみにとられず、会議の中身にも着目した評価指標の見直しも検討する。
							実績値	55	10	35	53	71					
							達成率	67.1%	12.2%	42.7%	64.6%	86.6%					
58	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	豊かな生活を支える学び合いや絆づくりの機会と場の充実	地域のあり方に関する検討組織数	増加指標	地域	0	目標値	0	8	20	28	36	36	36	地域運営のあり方の検討にあたっては、地域の自主的な活動を促すことが可能な活動拠点を確保し、その上で、多機能地域自治型組織の設立等、少子高齢社会においても地域活動を継続していくことができる運営母体を形成していく必要がある。 そこでR6年度から、多機能地域自治型組織の設立を見据え、連合自治会等の合意のもと、市立公民館に地域の活動拠点として「地域交流センター」を設置した。さらには、多機能地域自治型組織が、1地区(牧野)で新たに設立され、その他3地域で新たな設立に取り組んでいる。また、市内の多くの地域で、設立の取組みを開始するには至っていないが、検討はなされており、100%に近い達成率となった。 多機能地域自治型の地域運営にあたっては、社会教育活動をはじめとした既存の地域活動の抜本的な見直しを進める視点が必要であることから、地域住民の現状や将来の課題に対する行政の認識のみならず各地域の実情に応じた改善策の検討に向けた地域住民の相互理解も重要である。今後とも、地域の実情に応じた丁寧な対応に努めていく。	各地域で『地域活動の効率化』や『住民にとって身近な課題の解決』に取り組むために、多機能地域自治型組織の設立は必要と考えている。引き続き、地域に寄り添いながら、アドバイザーの派遣や勉強会の開催等、組織化に向けた支援を行う。 また、多機能地域自治の設立や運営にあたっては、地域交流センターにおける事務局としての役割も重要なことから、住民のみならず事務を担う方々とともに、これらの対応を進めていく。	まずは、多機能地域自治型組織の活動がしやすくなるよう、R6年度から市立公民館に「地域交流センター」を設置したこと、施設の利用制限が大きく緩和され、コミュニティセンター同様、様々な活動に利用することができる場所となった。これにより、多機能地域自治型組織の設立が市内各所で始まってきているが、その他の地域においても、設立に向けた検討、準備に取り組む地域も増加傾向にある。 今後とも、多機能地域自治型組織の増加が図られるよう、各種支援を継続し、少子高齢社会における新たな地域運営組織の普及を連合自治会とともに進めていく。
							実績値	0	2	17	35	35					
							達成率	－	25.0%	85.0%	125.0%	97.2%					
59	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	豊かな生活を支える多文化共生社会の推進	公民館利用者数	維持指標	人	545,578	目標値	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	484,923	545,578	新型コロナウイルス感染症により縮小していた公民館の利用状況が徐々に回復してきているが、まだ以前の水準に達しておらず、目標値を大きく下回った。 各地区の生涯学習の質を高めるため、R6年度より各館に派遣している生涯学習支援員の研修会を年数回開催している。研修会で得た知識を生かし、SNS等を活用するなど、公民館活動のさらなる周知を図り、幅広い年齢層の公民館利用に繋げる必要がある。	R6年度より公民館が新たに地域交流センターに移管され、今まで以上に幅広く利用できる地域活動の拠点としてスタートしている。 地域住民の生涯学習の場、地域活動の場として利用していたため、地域の実情に応じたコミュニティの拠点となるよう支援をしていく。また、引き続き生涯学習支援員の研修会を開催し、知識向上に努め、地域の生涯学習の活性化を図る。	新型コロナウイルス感染症により縮小傾向にあった公民館の利用状況が徐々に回復してきているが、まだ以前の水準に達していない。その間に公民館が地域交流センターに移管される等の変化もあった。今後も引き続き、各館と連携し、支援員の研修や地域への支援を行い、コロナ禍以前の水準までの回復を目指していく。
							実績値	267,581	250,303	322,737	363,613	361,383					
							達成率	48.7%	45.5%	58.7%	66.1%	65.7%					
60	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	お互いを理解し合う、多文化共生社会の推進	通訳・日本語支援・ホームステイ等のボランティアの登録者数	増加指標	人	168	目標値	170	138	148	158	168	165	168	日本語支援ボランティアの登録者数は横ばいであったものの、災害時外国人支援ボランティアについては、新規登録者数が国籍を問わず増加した。これは、県防災士会との連携やSNSを活用した積極的な制度周知及び研修会の周知によるものあり、結果、全体として目標値を達成している。	富山県・高岡市国際交流協会等の関係機関と連携し、各種ボランティア制度の周知を行い登録推進を図る。また、登録者のスキルアップに資する研修・訓練等を実施し、各登録者が真に必要な時に活躍できる体制づくりに努める。	制度の周知とともに、登録者のスキルアップに資する研修等を実施し、それらを積極的に発信することで、ボランティア登録者数を確実に増加させることができた。外国籍市民が増加している中、多文化共生の考え方や必要性を市民に伝え、さらなるボランティアの登録拡大を図る。
							実績値	128	131	149	159	175					
							達成率	75.3%	94.9%	100.7%	100.6%	104.2%					
61	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	歴史・文化資産を活かした魅力ある地域活動の創出	地域の歴史・文化資産に関するまちづくり出前講座の実施数	増加指標	回	11	目標値	13	14	15	15	15	16	17	令和6年能登半島地震の影響により未達となったが、14件の出前講座依頼があり、昨年度と比較して1件の減少にとどまった。内訳はお好み講座が減少し、テーマの1つである「高岡城跡」の割合が高まった。	出前講座の実施だけでなく、まちなかでのイベントなど、様々な機会を通して本市の歴史・文化財を分かりやすく伝え、地域の宝としての意識醸成を図っていく。	コロナ前の件数よりも増加しており、一定程度の周知が図られてきたと考えている。 引き続き、出前講座だけでなく、まちなかでのイベントなど、様々な機会を通して本市の歴史・文化財を分かりやすく伝え、地域の宝としての意識醸成を図っていく。
							実績値	3	7	15	15	14					
							達成率	23.1%	50.0%	100.0%	100.0%	93.3%					
62	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	スポーツで健康なまちづくりの推進	高岡市の体育施設の利用者数	維持指標	人	736,579(33施設)	目標値	736,579	736,579	736,579	736,579	736,579	736,579	736,579	利用者数に対する新型コロナウイルス感染症の影響は少なくなっているが、R4年度末に長慶寺室内プール等が廃止となったことやR6年度にスポーツコアのイベント広場改修に伴う使用停止期間が生じたことにより、依然としてコロナ禍前の利用水準まで回復していない。	東洋通信スポーツセンターの復旧、スポーツコア人工芝フィールドの供用開始などにより、利用者数の増加が期待できる状況にある。また、施設予約システムをR7年度から稼働することで、利用者の施設状況の把握、予約の利便性を向上させ、利用者数の増加を図る。	新型コロナウイルス感染症の影響や猛暑、地震等の自然災害のほか、施設の廃止や改修による使用停止期間があったことにより、利用者数が伸び悩んでいる。 R7年度からは、予約システムの稼働や新施設の供用開始などにより、利用者数の増加を図る。予約システムの運用については、職員による利用者へのサポートをしっかりと行っていく、利用者への早期の浸透を図りたい。
							実績値	467,412	504,148	587,709	530,136	535,511					
							達成率	63.5%	68.4%	79.8%	72.0%	72.7%					
63	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	スポーツで健康なまちづくりの推進	学校開放における利用者数	増加指標	人	322,771	目標値	325,999	329,259	332,552	335,878	339,237	221,383	223,596	目標数は未達であるものの、コロナ禍の影響が少なくなり、利用者数は増加傾向にある。再編統合による利用校数の減もあったが、新設校等への利用者調整の中で、利用者数への影響を最小限にできている。	施設予約システム及びスマートロックがR7年度から稼働しており、利用者の施設利用における開錠・施錠などの利便性が向上することによる利用者数の増加を図る。	感染症の影響により落ち込んだ利用者数は回復傾向にある。再編統合による利用校数の減があったものの、利用者調整の中で影響を抑えることができており、今後も再編統合により活動の継続に支障が出ないように利用者調整を行っていく。また、利用者登録の案内や、年度途中の利用団体募集の周知をしっかりと行い、誰でも気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりに努める。
							実績値	208,406	223,762	228,765	217,020	237,850					
							達成率	63.9%	68.0%	68.8%	64.6%	70.1%					
64	④誰もが自分らしく活躍し、地域が輝き続ける創造的なまちをつくる	スポーツで健康なまちづくりの推進	学校開放における登録利用団体数	増加指標	団体	376	目標値	380	384	388	392	396	389	394	利用団体数は概ね横ばいで推移している。利用案内について、過年度から利用している団体だけでなく、新規に設立された団体やニュースポーツ団体等への周知も行い、新たな利用団体の発掘を行っていく必要がある。	誰もが気軽にスポーツを楽しめるよう、幅広い団体に学校開放の存在や利用方法について周知を行い、様々な団体が学校開放を利用できるよう取り組んでいる。	利用団体数に対する感染症の影響は限定的であったが、団体数は横ばいで推移してきている。 利用者登録の案内や、年度途中の利用団体募集の周知をしっかりと行い、誰でも気軽にスポーツを楽しむことができる環境づくりに努める。
							実績値	398	276	382	381	371					
							達成率	104.7%	71.9%	98.5%	97.2%	93.7%					